

私のすすめるこの1冊

山本 綾乃 (附属図書館 職員)

『プリズン・ブック・クラブ・コリンズ・ベイ刑務所読書会の一年』

アン・ウォームズリー (著)

皆さんは、読書会というものに参加したことがあるでしょうか。

この本は、ある雑誌記者がカナダの刑務所で読書会を運営するボランティアをした一年間の記録です。読書会というと、本好きが集まる場。それが刑務所でなんて成立するのかと疑問に思えますが、参加は本人の希望によるもので、意外にも本好きが集まってきます。

さて、この本、著者自身が読書会に参加することになった事情が語られた第1章と、参加者たちのその後が書かれた第21章以外は、ひたすら読書会の様子が淡々と語られています。盛り上がり欠けるようですが、読み進めるうち、自分もその会に参加し、話を聞いているような気分になってきます。

「この読書会がすごくおもしろいのは、自分では気づきもしなかった点をほかのやつらが掘り起こしてくれる」(第7章)

ここで語られる刑務所という特殊な環境の読書会でしか出てこないような意見には、この参加者の言葉の通り驚かされますが、彼らがなぜ本を読みたいのか、なぜ読書会に参加するのか、著者との会話で

語られる言葉には、どんな読書論より明快に、本を読むことの意味や読書会によって得られるものを教えられます。

表題のコリンズ・ベイ以外の刑務所での回もあり、出所や他刑務所への移送などで参加者はどんどん入れ替わります。読書会を楽しみにする参加者は、移送された別の刑務所でも新たに読書会を立ち上げ、出所した参加者は外の読書会に参加します。どうも読書会はハマるものようです。さらに、1年という短い期間ではあるのですが、重犯罪者に対する著者の心境や、読書会の参加者が人への共感性を見せ始めるところなどの変化がうかがえ、読書会にトライしてみたくになります。

翻訳は実に400頁を超え、手に取ることを躊躇する分厚さですが、各章に1回分の読書会の様子が語られているので、どこから読んでもいいし、1章分だけ読んでも大丈夫。課題書や文中で紹介された本は、巻末に8ページにおよぶブックリストがあるので、そちらも気になれば手にとってみては。きっと参加者の意見をもう一度読み返したくなるはずです。

後期からの図書館利用について

○本学令和2年度後期の対面授業実施における新型コロナウイルス感染拡大予防マニュアルを踏まえつつ、活動内容に応じて工夫して図書館をご利用ください。

URL:https://www.kyokyo-u.ac.jp/news/20200917_coronavirusmanual.pdf

○マスクの着用をお願いします。

○入館時の手指消毒をお願いします。

○ラーニング・コモンズ、グローバルスクエアはソーシャルディスタンスを保ってご利用ください。

○グループ学習室、研修・セミナー室2・3をご利用の場合はカウンターに前日までに予約ください。(利用条件があります。)

○リフレッシュラウンジは飲食不可としておりましたが、後期は飲み物は可、食べ物は不可とします。新型コロナウイルス感染症拡大防止にご協力をお願いいたします。



新着図書たくさん入っています♪

遠隔教育やLGBTQ、部活動関連、各分野の新刊に加え、特別支援学校学習指導要領解説、2022年度版京都府、京都市の教員採用試験参考書など入っています。

読書の秋、
どんどんご利用
ください



雑誌の製本作業について

8月から10月下旬(予定)まで、南館1階・西館3階にある雑誌のうち、2018年~2019年に発行されたものを中心に、一部の巻号が製本作業のため利用できなくなります。製本後はすべて西館3階(書庫)に並べますので、そちらをご利用ください。

※作業中は製本対象リストを図書館ホームページに掲載しています。

図書館講習会のお知らせ

4~7月に実施したツアー・講習会を10月にも上限3名程度の予約制で開催します。(レポート・論文資料収集法【海外文献検索・入手編】は10月より)詳しくは、図書館HPやチラシをご覧ください。

Webブックハンティングを開催します!

Webブックハンティングとは?

学生の皆さんが、書店のホームページから「図書館においてほしい本」を選べる企画です。

2018年・2019年は直接書店に行くツアーでしたが、今年はWebで行いますので、好きな時間に自宅のパソコンやスマホで選書することができます。

今まで日程が合わなくて参加できなかった方も、ぜひこの機会にご参加ください!

【対象】学部生、院生(特別専攻科を含む)

【対象書店】Junkudo BookWeb Expert(ジュンク堂書店オンライン書店)

【募集人数】20名程度

【募集期間】10月5日(月)~10月9日(金)

【選書期間】10月後半を予定

【申込先】library@kyokyo-u.ac.jp

(学籍番号、所属専攻、氏名を明記)

※予算は1名につき15,000円程度を予定しています。

※応募者多数の場合は、専攻の偏りを考慮して調整する場合があります。

※選んだ本を紹介するPOP(1点以上)を作成いただき、本と一緒に館内に展示します(氏名は出ません)。

参加者の方には、後日詳細をご連絡します。

皆さまのご応募、お待ちしております!

ぜひ、参加して
ください!

リクエストと投票で話題の本を読もう!

学習研究以外のリクエスト本を一定期間掲示し、皆さんの投票で購入する本を決定するリクエスト企画をしています!リクエストや投票にどんどん参加してください!

10月の投票期間は

10月1日(木)~10月15日(木)

※結果によっては購入できないこともあります。

※学習研究目的のものは原則として購入していません。



京都教育大学
それはかなう夢講座

「先生になりたい - それはかなう夢」は、京都教育大学のシンボルフレーズです。「それはかなう夢講座」では、本学の教職員が、学部、大学院のすべての専攻、研究科の学生や教職員の皆さんを対象に、科学の魅力をわかりやすくお伝えしていきます。特に、小学校の先生になりたいと思っている学生の皆さんのご参加をお待ちしています。

第22回の報告

YouTubeで公開されました（現在も視聴できますのでどうぞ！）

<https://www.youtube.com/watch?v=7ycAxjKB4kM>

【講師】田中 多佳子（音楽科 教授）

【テーマ】音楽って何だろう



第23回のお知らせ

【日時】10月中旬YouTube 公開予定

【場所】今回はYouTube 公開のみです

【講師】児玉 一宏（英文学科 教授）

【テーマ】ことばの科学-英文法の不思議発見

<概要>

認知言語学という研究領域の成果を活用し、英文法の不思議の世界を探訪します。たとえば、*Chris baked Pat a cake.* という二重目的語構文には、*Chris baked a cake for Pat.* というパラフレーズ構文が存在するため、一般に、機械的な書き換えが成立すると考えられがちです。果たしてそうでしょうか。

言語現象には「認知」のはたらきが反映されているという視点に立ち、「構文の書き換え」にアプローチしてみましょう。ことばの不思議さ、ことばについて思索することの面白さを感じていただければ幸いです。

主催：「現代的ニーズを踏まえた「理系」教員養成のためのカリキュラム開発」プロジェクト委員会

後援：京都教育大学同窓会・京都教育大学附属図書館

論文検索データベース「Research Library」
トライアルのお知らせ

当館では、海外論文検索データベース「Research Library」のトライアルを実施しています。

基礎的な学術分野や世界的に広く研究されている分野をカバーしており、約5,400誌のフルテキストを閲覧することができますので、ぜひこの機会にご活用ください。

ご利用方法

トライアル期間：10月31日(土)まで

アクセス URL：search.proquest.com

※学内 LAN 環境下でのみ利用可

Research Library とは？

ProQuest 社が提供する総合・学際的なジャーナルデータベースです。

基礎的な学術分野や世界的に広く研究されている分野をカバーしており、約5,400誌のフルテキストを閲覧することができます。研究や学習に広くご活用ください。

学修相談カウンター

理科教育専修、数学教育専修の先輩たちがいろいろな質問に対応してくれます。免許を2つ以上取りたい、初等・中等算数科教育理科の授業づくりなど色々相談してみてください。

【場所】附属図書館 北館2階

ラーニングcommons廊下側

【日時】月～金

15:00～17:00 または 16:30～18:30

※実施時間や相談可能な科目は日によって異なります。



児童書コーナー（南館1階）



幼児教育科主催

えほんのもい

学生による絵本のよみきかせ

★しばらくお休みです。

今月の絵本カード
（学生作）

『さつまのおいも』

文：中川 ひろたか

絵：村上 康成

出版社：童心社



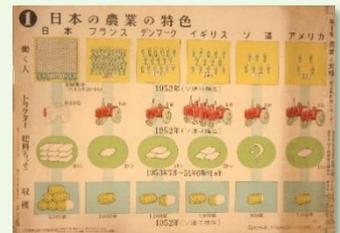
※児童書コーナーに展示しています。他にも毎月かわいいカードが飾られていますので、ぜひ見に来てください。

教育資料館 まなびの森ミュージアム

今月の逸品
（10・11月）

「農業、食料生産にかかわる教材掛図
（4枚8面）」

展示場所：図書館



教育資料館 まなびの森ミュージアム

<https://www.kyokyo-u.ac.jp/museum/>

論のくちび理のむすび

今回の執筆者 内田 利広 (教育学科 教授)

発達障害の可能性のある児童生徒の見立てと支援 —「担任の見立て」と「発達歴」の2軸による4類型から—

内田利広・内田純子

京都教育大学紀要 2020, No. 136, pp. 93-107.

学校教育において、発達障害のある子どもへの支援は、喫緊の課題としてここ数年注目をされています。そして、その重要性が意識されるようになると、逆に意識しすぎてしまって、子どもの理解が難しくなっているところがあります。

子どもの気になる言動や問題行動について、発達の視点を持って何か課題があるのではとないかと考えることはとても大切なことです。しかし、子どもの発達の課題の理解はとても難しく、例えばこれまでに発達障害の診断や、発達検査によりその可能性の示唆を受けていたりすると、その子の問題行動を理解するのに、発達の特性から理解しようとする傾向が強くなるのではないかと思います。つまり「発達障害であるA君」という視点で子どもを見てしまうことになってしまいます。しかし、その発達障害の診断や検査による指摘というものも、かなり幅があり、流動的な側面もあります。その診断や検査による指摘も、いつ、どこで、どのような表現で伝えられたのか、など詳しく聞いていくと、さまざまな幅があります。本論では、それを「発達歴」からの理解として述べています。

また、発達障害といっても、その現れ方は人によって、さまざまであり、担任から見てそのような傾向はあまり感じられないという場合もあります。このような担任による「見立て」もとても重要であり、担任自身が、これまでの経験を通して、発達の偏り、特性などについて体験的に学んできた理解、つまり「担任の見立て」ということも、ひとりの子どもを理解する上では大切ではと思われる。そして、本論ではこの二つの視点からの理解による4類型について、説明しています。関心のある人は、ぜひ一読していただければと思います。

※本タイトルの論文は京都教育大学紀要 136号に掲載されています。

※京都教育大学リポジトリ「クエリ(KUER)の森」<https://ir.kyokyo-u.ac.jp/>に掲載されています。

開館日程 □9:00-21:00 ■9:00-17:00 ■休館(CLOSED)

2020年10月						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

10/1 後期授業開始

2020年11月						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

11/4 館内整理日

●京都教育大学附属図書館ホームページ

<http://lib1.kyokyo-u.ac.jp/>

●携帯版 OPAC

(QRコード)

<https://tosh2.kyokyo-u.ac.jp/webopac/mobtopmnu.do>



京教図書館 News No.241 (2020年10月号)

発行日:2020年10月1日

編集発行:京都教育大学附属図書館

問い合わせ先:library@kyokyo-u.ac.jp

国立大学法人
京都教育大学
KYOTO UNIVERSITY OF EDUCATION